

研究報告第94号～第105号・第01号～第03号 内容概要

号数	表題および内容	執筆者	ページ数	発行年月日
94	高等教育におけるファカルティ・ディベロップメントと教授デザイン		204	平8.11.29
	• はしがき	佐賀 啓男	1	
	• 教授デザイン研究の発展と主な教授デザイン理論	佐賀 啓男	18	
	• 私の教授方法とその改善 ―教養選択科目「講座：女性学」における教授法改善の試み―	梅宮 新団	22	
	• 教授法改善のためのメディア利用	大山紀美栄	9	
	• 大学における英語教育改善の試み ―“ESP”理論の研究と教材開発―	加澤 恒雄	13	
	• 保育者養成短期大学における教授法改善について ―必修科目、言葉の事例から―	佐々加代子	38	
	• 財務情報教育における教授デザイン及び会計教育に関するFDについて ―コンピュータリテラシーの教育を含めて	武井 敦夫	20	
	• 教授法改善のためのメディア利用と授業の評価調査 ―愛知淑徳大学「民俗学」においての試み―	谷沢 明	15	
	• 新カリキュラム編成・運用とシラバス	堀田 明男	24	
	• 工学部基礎物理学のFDとしての一つの試み ―講義、演習、実験の有機的結合について―	前田 高雄	6	
	• シラバスの構成、作成課程、実際の意義、効果と問題点 ―佐賀医科大学看護学科における「人間科学」「男性と女性」の場合―	松山 敏剛	8	
	• FDワークショップの実施と評価 ―1995年度ワークショップ―	宮本 友弘 望月 要	12	
	• 私の教育方法の改善 ―保母をめざす女子大生に対するNANDAの看護診断の講義と学生の反応―	森 忠三	14	
	• FDセミナー室整備状況と今後の課題 ―メディア技術とFD―	望月 要 芝崎 順司 宮本 友弘	5	
95	教育ソフト制作チーム構成員の役割分担についての調査・研究		144	平8.11.29
	はしがき	佐々木正實	1	
	I. 映像ソフト制作課程および制作チーム構成員の役割分担に関する調査研究			
	1. 調査の概要			
	1) 調査のねらい		1	

号数	表題および内容	執筆者	ページ数	発行年月日
	2) 調査の対象とした番組、作品について		10	
	3) 調査票について		2	
	4) 調査手続きについて		2	
2.	集計結果 ～ジャンル別に見た制作課程と制作チーム構 成員の役割分担～			
	1) ドラマ番組	橋本 孝良	9	
	2) ドキュメンタリー番組	鈴木 康弘	5	
	3) 娯楽バラエティ番組	野田 慶人	8	
	4) 教養バラエティ番組	井出 定利	6	
	5) 教育番組	飯森 彬彦	6	
	6) パッケージ型映像教材ソフト	福井 康雄	5	
3.	考察 ～映像ソフト制作の諸相～			
	1) 映像ソフト制作課程における制作スタッフの役割と意 思決定権	上原 清	14	
	2) プロデューサーとディレクターの役割	鈴木 康弘	9	
	3) 制作スタッフ数とメディア特性について	井出 定利	3	
	4) 制作体制からみた「番組」と「作品」	福井 康雄	5	
	5) 制作システムから見た教育番組の特色	飯森 彬彦	7	
	6) 現場コミュニケーションの次元からみた映像ソフトの 意思決定構造	上滝 徹也	6	
★	調査を終えて		16	
II.	放送大学番組の制作チームに関する研究	佐々木正實	33	
96	講師にやさしい演出技法の研究		144	平8.12.20
	はしがき	佐々木正實	1	
	1 講師の緊張を和らげる演出上の工夫 ー仮説ー	佐々木正實	16	
	2 講師の緊張と演出の関係に関する実験 ー仮説の検証			
	第1章 実験の概要(1)	仁科 エミ		
	1. 実験のねらい		1	
	2. 評価指標の選定		2	
	3. 対象番組と評価対象項目		1	
	第2章 実験結果と考察(1)			
	ー心拍数の変化と講師の緊張ー	仁科 エミ	17	
	第3章 実験結果と考察(2)			
	ー演出上の工夫と講師の緊張ー			
	1. 白板前立ち	佐多 光昭	17	
	2. 次画面表示装置の導入	松川 正樹	8	

号数	表題および内容	執筆者	ページ数	発行年月日
	3. 講師によるVTRスタート	松川 正樹	9	
	4. フロアーで指揮	井出 定利	10	
	5. 中断をはさんだ収録	飯森 彬彦	13	
	第4章 座談会 ー出演講師の立場からー		11	
	第5章 実験を終えて	佐々木正實	2	
3	演出技法に関するアンケート調査から ー放送大学授業 番組出演経験者の意識ー	瀬田智恵子	25	
97	平成5年度放送利用の大学公開講座テーマ研究報告書		384	平9.1.31
	はじめに	田代 和久	1	
	I 番組の制作に関する研究			
	番組制作における情報の構成方法・伝達方法の大学授業 との差異について	大谷 尚	20	
	II 印刷教材のあり方に関する研究			
	・21世紀の地域医療 ー地域ケアを見る目・語る目・動か す目ー	丸地 信弘	12	
	・繊維の文化誌 ー文化に描かれた繊維の技術と文化ー	松沢 秀二	14	
	・印刷教材のあり方に関する研究と受講生の拡大に関する 研究	高野 光男 山口 修 水越 敏行	19	
	III 受講生サービスと受講生の拡大に関する研究			
	・「放送による東北大学開放講座」と地域生涯学習の展開	萩原 敏朗	21	
	・学習の促進度をはかる一つの試みと受講生の回答への取 り組み姿勢について	高野 英資	40	
	・地域住民の学習要求と放送公開講座	佐伯 信男	18	
	・教材開発のあり方と地域文化施設活用によるスクーリン グの試み	重中 信義	6	
	・受講料と受講生のニーズについて	藤田 徹也	8	
	IV 大学授業への活用に関する研究			
	・四国地区国立大学放送公開講座「黒潮のめぐみ」	谷口 順彦	32	
	・放送公開講座の大学授業への活用	田中 雄次	19	
	・ビデオを主として	吉田 茂	13	
V	特別調査研究	阿部 和厚 石田 孝平 吉田 弘夫 高橋 宣勝 小島 喜孝 生田 和良 吉田 豪介 諸富 隆 佐々木重之 山口清次郎 柳橋 雪男 浜谷 弘司 林 義明	20	
VI	第11回放送利用の大学公開講座シンポジウム実施報告			

号数	表題および内容	執筆者	ページ数	発行年月日
	1. シンポジウム概要			
	• 開会式、あいさつ		5	
	• 記念講演「生涯学習社会における大学の役割」		11	
	2. 第1セッション「地域社会に応える新しい放送公開講座のあり方」		33	
	3. 第2セッション「新しい共同研究体制からの視点」			
	第1分科会「教材開発のあり方」		31	
	第2分科会「放送公開講座の活用のあり」		30	
	4. 第3セッション「放送公開講座の新しい展開を求めて」		32	
98	放送利用の大学公開講座ハンドブック：次世代への継承		153	平9.2.28
	はじめに	田代 和久	1	
	本報告書の編集にあたって	廣瀬 洋子	1	
	第1章 テーマの設定	廣瀬 洋子		
	第1節 テーマの設定の重要性		3	
	第2節 過去16年間の放送利用の大学公開講座のテーマの推移		6	
	第3節 放送を利用した大学公開講座のテーマの特性		1	
	第4節 年代別の講座一覧とそのデータベース化		13	
	第2章 放送教材の制作	今津孝次郎		
	第1節 放送教材制作の基本問題		6	
	第2節 放送教材構成の諸方法		5	
	第3節 放送教材番組作品評価		5	
	第3章(1) 印刷教材のあり方について	水越 敏行		
	第1節 メディア特性分類と印刷教材の位置		3	
	第2節 「放送利用の大学公開講座」担当大学の調査より		5	
	第3節 実施の経験をふまえてのアドバイス		2	
	第3章(2) 印刷教材(テキスト)作成について	萩原 敏朗		
	第1節 印刷教材作成の2つのタイプ		8	
	第2節 印刷教材作成体制の課題と問題点		1	
	第3節 附節 印刷教材作成の第3の道(マルチメディア対応)への模索		3	
	第3章(3) 印刷教材と放送教材の複合効果	多田 方		
	第1節 問題の背景		3	
	第2節 考察の目的と範囲		2	
	第3節 考察		10	
	第4節 むすび		4	

号数	表題および内容	執筆者	ページ数	発行年月日
第4章	受講生サービス	阿部 和厚		
第1節	テーマの選定		4	
第2節	受講生サービス		5	
第3節	スクーリング、学習会		5	
第4節	アンケート調査と評価		3	
第5節	北海道における具体例		4	
第5章	遠隔高等教育におけるスクーリング	田代 和久		
第1節	遠隔高等教育の枠組みとスクーリング		3	
第2節	放送利用の大学公開講座におけるスクーリングの意味		2	
第3節	放送利用の大学公開講座におけるスクーリングの実施形態について		2	
第6章	授業への活用	石田 幸平		
第1節	授業への活用の一般的問題		2	
第2節	授業の組み立て方		3	
第3節	授業の実際と新しい試み		13	
第7章	放送利用の大学公開講座に関わる研究と研究資料	廣瀬 洋子	9	
資料編	目録			
資料1	調査研究テーマ一覧		11	
資料2	大学別放送公開講座番組の推移		10	
99	メディア教材の構造と利用に関する基礎的研究		87	平9.2.28
	はしがき	望月 要	1	
1.	人文系カリキュラムにおける教授法のメディア利用との関連	岡本 珠代	7	
2.	『ミミ号の航海』の教材として構造と意義について	佐賀 啓男	18	
3.	アメリカにおける初期の教育メディア研究の動向	芝崎 順司	13	
4.	地理学習を支援する教材開発のための基礎的研究 ―教科書にみられる地形の視覚表現の評価―	宮本 友弘	13	
5.	1900年代後半のアメリカにおける行動主義と教育工学	望月 要	11	
6.	アメリカ英語話者による日本語短母音・長母音・促音の学習 ―第2言語音声学習の基礎研究と教材開発に関わる諸問題	山田 恒夫	9	
7.	コンピュータ利用による英語教育 ―開発と実践―	吉田 信介	16	
100	教育実習と教師教育教材 ―教師教育プロジェクト―		57	平9.3.25
	はしがき	福井 康雄	1	

号数	表題および内容	執筆者	ページ数	発行年月日
	1. 教職課程におけるビデオ教材の効果的利用法	町田 健一	7	
	2. 「教育実習」指導におけるVTR教材の意義 — 事前指導における学生の意義の変容 —	黒澤 英典	8	
	3. 授業づくりに授業ビデオをどう生かすか(1) — 録音機器、録音・映像機器と教育方法研究 —	岡名 秀忠	6	
	4. ビデオ教材「高校数学Ⅰ」の数学教員志望学生による評価	伊藤 俊彦	7	
	5. 教師教育ビデオ教材「授業のスキル」のマルチメディア化	近藤 智嗣	6	
	6. 研究と授業のためのビデオ制作	福井 康雄	8	
	7. 最近の認知心理学の成果を教師教育研究にどのように生かすことができるか?	高橋 秀明	7	
	8. 「教育実習」のための新しい教材の開発	宮本 友弘	8	
101	高等専門学校用教材の利用状況とニーズに関する研究 — 新しい高専教材の開発をめざして —		85	平9.3.25
	はしがき	森 正直	1	
	I. 高等専門学校用共通教材の利用状況とニーズにする調査概要	森 正直 宮本 友弘		
	1. 調査の目的		1	
	2. 調査の方法		1	
	3. 調査結果		24	
	4. 考察と今後の課題		7	
	付録		9	
	II. 今後の高等専門学校用共通教材の開発と利用に向けて			
	1. 高専用共通教材の開発…利用等に関する提言 — 大学共通教材に利用拡大を —	若松 茂	5	
	2. 高専用共通ビデオ教材の開発…利用に関する意見	若林 二郎	5	
	3. 高専教材作成への提言	板谷 良平	4	
	4. ビデオを利用した学生実験の一紹介	浅野 光彦	1	
	5. 高専用共通教材の開発・利用に関する提言 — 創造性を有する技術者育成を目指して —	竹中 慎司	5	
	6. 高専用共通教材の開発・利用に関する意見	森 夏樹	3	
	7. 国立高等専門学校の共通教材の開発の経緯	大内 登	4	
	8. 高等専門学校共通教材のマルチメディア化とネットワーク化について	山田 恒夫	5	
	資料		5	

号数	表題および内容	執筆者	ページ数	発行年月日
102	障害者の高等教育とメディア・アクセスの研究		187	平9.3.25
	はじめに	廣瀬 洋子	2	
	第1章 障害者の高等教育とメディア・アクセスの研究：インタビュー調査報告			
	1. 研究の目的と方法	廣瀬 洋子	2	
	2. 高等教育に学ぶ視聴覚障害者とメディア利用	香川 邦生	8	
	3. 高等教育に学ぶ聴覚障害者とメディア利用	都築 繁幸	10	
	4. 高等教育に学ぶ肢体不自由障害者とメディア利用	三ツ木任一	2	
	5. 事例集		120	
	事例1(視覚障害者) 事例2(視覚障害者)			
	事例3(視覚障害者) 事例4(視覚障害者)			
	事例5(視覚障害者) 事例6(視覚障害者)			
	事例7(視覚障害者) 事例8(聴覚障害者)			
	事例9(聴覚障害者) 事例10(聴覚障害者)			
	事例11(聴覚障害者) 事例12(聴覚障害者)			
	事例13(聴覚障害者) 事例14(聴覚障害者)			
	事例15(聴覚障害者) 事例16(聴覚障害者)			
	事例17(聴覚障害者) 事例18(肢体不自由)			
	事例19(肢体不自由) 事例20(肢体不自由)			
	付録 質問表			
	第2章 障害者の高等教育とメディア利用に関するアンケート調査報告			
	1. 視聴覚障害者と聴覚障害者に対する一般大学での受け入れ及び学習支援体制	都築 繁幸		
	(1) 研究の枠組		3	
	(2) 視覚障害者学生群の結果		4	
	(3) 聴覚障害者学生群の結果		5	
	2. 一般大学の受け入れ及び学習支援体制に関する若干の考察	香川 邦生	10	
	3. 障害学生のメディア利用に関する自由記述の分析	廣瀬 洋子	2	
	(1) 全体の概要と分析			
	視覚障害者		7	
	聴覚障害者		4	
	まとめ		2	
	(2) 項目別の記述からの抜粋と意見の傾向			
	視覚障害者		9	
	聴覚障害者		5	

号数	表題および内容	執筆者	ページ数	発行年月日
	第3章 障害者の大学で学ぶということ：メディア利用の実態と今後の展望：座談会		23	
	資料編 障害者の高等教育とメディア利用に関するアンケート調査			
	(1) 基礎集計データ			
	①視覚障害学生の結果		62	
	②聴覚障害学生の結果		60	
	(2) 自由記述		55	
	(3) アンケート調査票		7	
103	大学の授業改善Ⅲ ―調査研究と実践報告―		265	平9.3.25
	はしがき	伊藤 秀子	2	
	第1部 研究論文			
	第1章 授業実践に関する調査(Ⅱ)	伊藤 秀子	17	
	第2章 大学生の学習方略の授業間の差異について	吉田 雅巳	9	
	第3章 日常研究活動の文脈におけるメディアリテラシー(研究能力)の育成	菅井 勝雄 前迫 孝憲 山内 祐平 佐野 彰 松下 幸司	14	
	第4章 「教育方法・技術」の講義に対する自己点検(Ⅱ)	星野 昭彦	5	
	第5章 ロールプレイとそのビデオ映像化による自己評価	池田 克巳 市村 光 下島 孝裕 須藤洋太郎	17	
	第6章 学部学生の自学自習方式によるグループ演習の構成と展開 ―「教育実践基礎演習」の事例から	大熊 紀和	11	
	第7章 知的財産教育を支援するマルチメディア教材について ―教材作成及び教材の構造に関する報告―	木村 友久	32	
	第8章 大学の授業と授業改善	日下 和信	10	
	第9章 ビデオ記録による授業・学習活動のフィードバックの実験 ―いかにして授業ビデオの撮影と再生を手軽に行うか―	志柿 光浩	10	
	第10章 演習と中心とした時事商業英語授業の基本的展開方法について	杉浦 広昌	7	
	第11章 社会人一般教育化学におけるビデオ活用法	西 義武	7	

号数	表題および内容	執筆者	ページ数	発行年月日
	第12章 ハイビジョンと広帯域ISDN実験網を用いた大学 医学部間遠隔講義の実践的研究	湊 小太郎	16	
	第13章 ノート・テーキング指導による「英語学」の授業 改善	湯本 和子	43	
	第2部 活動記録			
	第1章 授業記録と解説	藤田 恵璽 (編集)三尾 忠男	23	
	第2章 研究活動経過	三尾 忠男	5	
	第3章 研究成果刊行一覧	三尾 忠男	2	
104	ストレートトーク番組におけるプレゼンテーション技法の 研究		244	平9.7.10
	はしがき	佐々木正實	1	
	I プレゼンテーション能力の発揮度を高める演出技法 ー仮説ー	佐々木正實	12	
	II プレゼンテーション能力測定尺度の作成	村松 賢一	93	
	III 「スタジオと教室」におけるプレゼンテーション能力発 揮度のちがい ー仮説の検証実験1ー	高津 直己	24	
	IV 演出技法によるプレゼンテーション能力発揮度のちがい ー仮説の検証実験2ー			
	1 実験項目および実験方法	高津 直己	3	
	2 演出上の工夫	田中 克己	58	
	3 出演者自身の工夫	高津 直己	47	
	V 聞きやすい放送講座番組 ー音声技術者の立場からー	前川 清次	5	
	VI まとめ	佐々木正實	2	
105	放送メディアによる双方向教育番組の開発		139	平9.7.25
	はしがき	佐々木正實	1	
	第1部 製作に先立って			
	I 教育における双方向性 ～授業モデルの観点から～	中野 照海	10	
	II 教育番組と双方向性 ～試作番組のイメージ～	佐々木正實	20	
	第2部 製作の記録			
	I 製作の概要	松川 正樹	2	
	II 予備実験	高津 直己	10	
	III 試作番組の概要と構成・演出	松川 正樹	37	
	IV 試作番組の技術的側面1 ～ネットワーク回線～	大西 仁 田中 健二	12	

号数	表題および内容	執筆者	ページ数	発行年月日
V	試作番組の技術的側面2 ～スタジオおよび視聴者側 端末とソフト～	小川 武	11	
第3部	制作を終えて			
I	演出側からみた制作システムの評価	高津 直己	8	
II	試作番組に出演して ～講師の立場から～	後藤 久	4	
III	双方向教育番組実現への課題	佐々木正實	2	
付録1	双方向番組および双方向遠隔教育の実践例・実 験例	佐々木正實	10	
付録2	試作番組の台本	松川 正樹	10	

平成10年3月刊行分から、新たなデザインに変更し号数も第1号からとなりました。

01	学部教育教材 博物館学芸員の仕事 ー考古編ー		137	平10.3.30
	はしがき	福井 廉雄	1	
	I. ビデオ教材「博物館学芸員の仕事 ー考古編ー」開発の 意義 ープロジェクトチームに参加した立場からー	白石太一郎	2	
	II. 「博物館学芸員の仕事 ー考古編ー」の制作 ー映像表 現の教材性追及の課程を中心にー	福井 康雄	25	
	(1) はじめに			
	(2) 企画の立案			
	(3) シナリオの作成			
	(4) 取材			
	(5) 仕上げ			
	(6) まとめ			
	III. ビデオ教材「博物館学芸員の仕事 ー考古編ー」の評価 調査	芝崎 順司	6	
	(1) 目的			
	(2) 調査方法			
	(3) 調査結果の概要			
	(4) まとめ			
	付録1 「博物館学芸員の仕事 考古学編 企画展示」調 査票		1	
	付録2 「博物館学芸員の仕事 考古学編 常設展示」調 査票		1	
	参考資料			
	1. 完成台本 学部教育教材 博物館学芸員の仕事 ー考 古編ー「発掘調査」		17	

号数	表題および内容	執筆者	ページ数	発行年月日
	2. 完成台本 学部教育教材 博物館学芸員の仕事 一考 古編ー「資料の整理と保管」		13	
	3. 完成台本 学部教育教材 博物館学芸員の仕事 一考 古編ー「企画展示」		17	
	4. 完成台本 学部教育教材 博物館学芸員の仕事 一考 古編ー「常設展示」		18	
	5. 完成台本 学部教育教材 博物館学芸員の仕事 一考 古編ー「体験学習」		15	
	6. 完成台本 学部教育教材 博物館学芸員の仕事 一考 古編ー「資料の分析と保存処理」		17	
02	高速学術マルチメディアネットワークシステムの研究開発 はしがき		127	平10.3.31
	1. 序言	永岡 慶三	1	
	1.1 研究の趣旨・目的		4	
	1.2 研究の内容・方法、年次計画			
	1.3 実験実施実績			
	1.4 研究組織			
	1.5 研究開発成果の公表			
	2. 研究開発ネットワーク基盤		4	
	2.1 ネットワーク構成			
	2.2 接続機器			
	3. 映像音響資料データベースのサービス実験 ーHDTV映 像素材の伝送実験		4	
	3.1 HDTVによる絵巻物の電子化の概要			
	3.2 対象とした絵巻物			
	3.3 撮影方法			
	3.4 測定方法			
	3.5 結果			
	3.6 評価			
	4. 新メディア遠隔教育システム		17	
	4.1 遠隔合唱実技指導			
	4.2 遠隔ダンス実技指導			
	4.3 遠隔ディベート			
	5. 快適なメディア教育システムの実験		4	
	6. 双方向性授業番組の開発・研究		17	
	付録：共通アンケート全データ		77	

号数	表題および内容	執筆者	ページ数	発行年月日
03	高等教育の国際化に向けて —メディア活用による留学生教育と異文化学習方—		191	平10. 3 .31
	はしがき	ジェーン・バクニック	1	
	Introduction : Realizing Internationalization in Japanese Higher Education Programs	Jane M Bachnik	5	
	序：高等教育の国際化と留学生教育プログラム	ジェーン・バクニック	4	
	第1部 異文化教授学習の枠組み			
	I 日本人と留学生の相互理解の過程 —ホームステイの事例に基づいて	ジェーン・バクニック	11	
	II What Is Effective Language Teaching?	Patricia J. Wetzel	15	
	効果的な外国語の教授法とは？	パトリシア・ウェッツェル	8	
	III A Pedagogy for Cross-Cultural Learning : “Experience Near”versus “Experience Distant”	Stephen P. Nussbaum	12	
	異文化学習の教授論：「経験に近いことと経験に遠いこと」	ステファン・ヌスバウム	7	
	IV 留学生の異文化学習について(座談会)	研究会参加者	42	
	第2部 異文化教育の実際			
	V “Cold Water”をめぐる留学生との意見交換 —カルチャーショックを乗り越えるために	ジェーン・バクニック 佐藤勢紀子	14	
	“Cold Water”and Teaching Pedagogy	Jane M Bachnik	2	
	VI Versions of Self-image : A Japanese perspective	Yoko Hirose	3	
	イメージの翻訳：日本からの視点	廣瀬 洋子	3	
	VII 学習者主体の「日本事情」 —異文化コミュニケーションを考える—	佐藤勢紀子	13	
	VIII 日本文学教授の方法について —「源氏物語」現代語訳及び翻訳を素材とした教授の一例	森 眞理子	10	
	第3部			
	IX アジアの留学生と日本の国際化	晨 光	7	
	X 留学生に係わる諸問題：いくつかの事例から(座談会)	研究会参加者	9	
	XI 留学生主体の公開討論会 —開かれた「日本事情」をめざして	佐藤勢紀子	12	
	結語：『開かれた大学』を目指して —『高等教育における留学生教育プログラムの研究開発』の意義と期待	大塚 雄作	5	